

令和5年度 太田商工会議所 経営発達支援事業の結果報告

令和6年3月14日 評価委員会用資料

事業実施期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日(令和4年度開始5か年計画)

補助対象期間：令和5年6月28日～令和6年2月28日

補助金申請額：1,481,180円

〃 使用額：1,467,477円

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R5年度		R4年度
				目標	実績	実績
1	① 管内景況調査 (D I 調査)	○	四半期に1回、管内の商業140社、工業130社に対し、D I 調査を依頼。結果を会報、HP、冊子にて周知。	4回	4回	4回
2	② 景況感聞き取り調査	○	毎月1回、従業員50人以下の会員事業所へ職員が訪問し、経営状況等をヒアリング。正副会頭会議に報告し会議所事業の参考とする。	12回	12回	4回
3	③ 経済概況発行	○	工業統計、商業統計、市町村民経済計算等にて発表された各種数値を整理・加工する。経営指導員の支援に役立たせる。	1回	1回	1回
4	④ 小規模企業景況調査	○	毎年所得税確定申告期間に売上高等を調査し、業種ごとに前年対比の各数値の傾向を分析する。経営状況分析の際に同業比較等で活用。	1回	1回	1回
5	⑤ 地域経済動向調査	○	RE S A Sから地域経済循環マップ・地域経済循環図、産業構造マップ、まちづくりマップ・From-to分析等を抽出。事業計画策定支援の際に外部環境分析に活用。	1回	1回	1回
6	⑥ 経済産業省生産動態 統計調査	○	自動車部品製造者向けに「輸送機械—自動車部品及び内燃機関電装品」の生産数量、生産金額の動向を毎月時系列にまとめ変動を収集、整理。	12回	12回	12回

2. 需要動向調査に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R5年度		R4年度
				目標	実績	実績
	① 新商品開発のアンケート調査対象事業者数	×	当所が開催する事業(地域振興イベント等)において、会報により参加者5者を募り、試食・試用及び来場者アンケートを実施。新商品開発や販路開拓を行う際に参考となるよう組織的支援を行う。	5者	0者	0者
7	② 商圈調査 対象事業者数	○	株式会社 日本統計センターが提供するサービス「Mi e Na (市場情報評価ナビ)」の市場分析データを、創業者や新たな地域に販路開拓を挑もうとする商業・サービス業者に対し情報提供する。	16者	22者	3者

① 新商品開発のアンケート調査対象事業者数

令和5年度には、出展イベントの開催ができなかったことから、令和6年度には新たな取り組みを行う。具体的には、ビジネスプレス発表会に参加した企業を対象に、展示会への出店費用を補助する。また、展示会に来場した方々からアンケートを取るための

対策も行う。これにより、参加企業がより効果的に展示会に参加し、来場者からのフィードバックを得ることができるよう支援する。

② 商圈調査 対象事業者数

M i e N a は令和 2 年度から導入した。この製品は、市町村・町丁目単位の分析データが出力でき、地域の実情に合った市場分析が可能である。昨年度は指導員が M i e N a を十分に活用できていないという課題があり、支援実績も 3 件に留まる。この問題を解消するため、今年度は指導員向けの M i e N a セミナーへの参加を促した。結果、M i e N a の使い方等の理解度も向上し、支援先も 22 者に増加した。

3. 経営状況の分析に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R5年度		R4年度
				目標	実績	実績
8	① 経営状況分析件数	○	TOASやローカルベンチマーク等を活用して、定性・定量分析を実施。	112者	155者	72者
9	② 経営状況分析セミナー開催数	○	経営状況分析と事業計画策定をバックにした2日間のセミナーを年1回開催する。	1回	1回	1回

① 経営状況分析件数

経営状況分析に関しては、補助金や融資等の申請と併せて実施し、目標 112 者に対し、155 者の実績となる。その中で、持続化補助金 60 者、創業計画 27 者、マル経 18 者の順に経営状況分析の要望が多かった。加えて、毎週月曜日には、専門家による個別相談会を開催。令和 5 年度は 36 回開催し、指導員における支援とは別途に、45 者が支援を受け、延べ相談者数は 58 者となる。

② 経営状況分析セミナー開催

題 名：事業計画作成セミナー

日 時：令和 5 年 7 月 1 9 日 (水) 午後 2 時～ 4 時 1 0 者

講 師：田辺 浩氏 (中小企業診断士)

4. 事業計画策定支援に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R5年度		R4年度
				目標	実績	実績
8	① 事業計画等策定支援数 (経営革新、事業承継含む)	○	経営分析を実施した小規模事業者、持続化補助金を検討している小規模事業者、課題解決に意欲的な小規模事業者を対象に支援を実施。	80者	107者	51者
10	② 創業・第二創業計画策定支援数	○	あらたに創業を目指す者、第二創業を目指す者を対象に、地区担当指導員が支援を実施。	20者	27者	46者
9	③ 事業計画セミナー数	○	経営状況分析と事業計画策定をバックにした2日間のセミナーを年1回開催する。	1回	1回	1回

11	④ 創業スクール数	○	年1回開催。カリキュラムを、経営、財務、人材育成、販路開拓など必須事項を決め開催し、事業計画書策定まで導く。	1回	1回	1回
12	⑤ DX推進セミナー	○	販路拡大、売上拡大を目指す小規模事業者向けに、ネットショップの現状や売れるためのポイント、苦情への対応などネット販売に関する知識を学ぶセミナーを年1回開催する。	1回	1回	1回

① 事業計画策定支援数

マル経融資 18 者、ものづくり補助金 2 者、事業再構築補助金 5 者、小規模事業者持続化補助金 60 者、創業計画 22 者
その他、市・県の補助金やローカルベンチマーク等で 22 者となる。

② 創業・第二創業計画策定支援数

創業スクール受講者 23 者の内 15 者。

③ 事業計画セミナー開催

題 名：事業計画作成セミナー

日 時：令和 5 年 8 月 2 日(水)午後 2 時～4 時 10 者

講 師：田辺 浩氏 (中小企業診断士)

④ 創業スクール数

題 名：「太田商工会議所創業スクール」

期 日：令和 5 年 10 月 3 日(火)、6 日(金)、10 日(火)、13 日(金)、20 日(金)、
27 日(金)、31 日(火)

時 間：午後 6 時 30 分～午後 9 時 計 7 回 (合計 17 時間 30 分)

受講者：23 者

講 師：西村伸郎氏 (ジャイロ総合コンサルティング・中小企業診断士) 他

創業者：11 者

⑤ DX推進セミナー開催

題 名：DX推進セミナー

「インボイス制度・電子帳簿保存法などの新制度にも有効なツールを紹介」

日 時：令和 5 年 8 月 29 日(火)午後 2 時～4 時 12 者

講 師：藤原敬行氏 (経営学修士)

5. 事業計画策定後の実施支援に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R5年度		R4年度
				目標	実績	実績
8	① フォローアップ対象 事業者数	×	事業計画を策定支援した事業者を対象に計画の進捗状況についてフォローアップを行い、計画との差異が生じた事業者については、どんな理由で差異が生じたのかを明らかにし、その差異を埋めるための対策を検討し実行するまでを支援する。	100者	36者	17者
	② 頻度 (延回数)	×		320回	270回	234回

	③ 売上増加事業者数	×		26者	3者	6者
	④ 営業利益率1%以上増加の事業者数	×		26者	4者	0者

① フォローアップ対象事業者数

フォローアップに関しては、事業計画策定者 107 者の内 36 者（33.6%）と目標未達であり改善が必要である。事業計画策定支援は、主に持続化補助金などの補助金申請時に行われることが大半である。事業計画策定支援までは、事業者との密なやり取りを通じて行うが、採択後は相互の連絡が減少する傾向にある。また、実際には事業計画通りに進行することが難しい事業者も存在する。このため、令和 5 年 12 月 12 日締切となる第 14 回小規模事業者持続化補助金において、事業計画策定後のフォローアップを強化する取り組みを行っている。具体的には、ヒアリングシートを準備し、事業計画策定後のフォローアップに同意してもらうよう努めている。これにより、指導員が事業計画策定後のサポートを行い、フォローアップの件数を増やしていく。

売上高・営業利益については、5 者に確認をとり、売上が増加した事業者は 3 者、営業利益率が増加した事業者は 4 者となった。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R5年度		R4年度
				目標	実績	実績
13	① ビジネスプレス発表会発表数	○	管内事業者が開発した、新商品・新製品・新サービス、特徴ある技術・商品、または創業してまもなく新分野に進出した際、効果的にPRする場として、マスコミ記者の方々に一堂に集まって頂き、事業者の為に記者会見を開催。	8者	8者	7者
	② ビジネスチャンス交流会 発表者数	○	管内製造業を対象に年1回開催。販路開拓に意欲的な事業者が自社の製品や技術力を発表する場を設け、新たな需要の開拓へ貢献する。	2者	2者	中止
14	③ まちゼミ参加者数	△	まちゼミは、お店（店主やスタッフ）が講師となり、専門的な知識や情報、コツを無料で受講者（お客様）に伝える少人数制のゼミである。お店の存在・特徴を知って頂き、お店とお客様との信頼関係を築くことを目的とする。	63者	25者	29者
	④ ものづくり工業ビジネス交流会参加事業者数	—	高崎・太田・桐生・伊勢崎商工会議所が主管となり、市域の製造業の広域連携による「ものづくり工業」の産業振興に資する事業として自社の商品や技術をPRする交流会を実施する。	10者	延期	中止
	⑤ ネットショップ開設者数	△	ネットショップの立ち上げに対し、よろず支援拠点やITベンダーの専門家等と連携し、ネットショップ構築支援、PR手法、RFM分析、ABC分析等の支援を行う。	16者	8者	7者
	⑥ SNS活用事業者数	○	インスタグラムを活用している事業者に対し、当所のインスタグラムへの掲載を行い、商品・サービスのPR支援を行う。また、SNSを活用していない事業者に対し、SNSの活用を支援する。	16者	55者	32者
15	⑦ ザ・ビジネスモール新規登録事業者数	○	小規模事業者の商圏の拡大や様々な分野への進出を支援していくことを目的に、大阪商工会議所が運営し全国の商工会議所・商工会との協調事業であるインターネット上の商取引支援サイト「ザ・ビジネスモール」への登録を推進して、B to Bの販路開拓を支援する。	24者	25者	17者

① ビジネスプレス発表会

第28回 令和5年9月27日（水） 4社

参加事業者：(株)POEM、(株)ナビジュウ、旭合成(株)、合同会社やしろう苑

第29回 令和6年2月7日（水） 4社

参加事業者：しげる工業(株)、(株)SHITARA、(株)アルブル Restaurant OHTAYA、(株)SK

ビジネスプレス発表会に参加した7社、旭合成(株)、合同会社やしろう苑、(株)ナビジュウ、しげる工業(株)、(株)SHITARA、(株)アルブル Restaurant OHTAYA、(株)SKが上毛新聞や日刊工業新聞に掲載された。

② ビジネスチャンス交流会

令和6年3月8日（金）

新型コロナウイルス感染症後、5年ぶりの開催。

発表企業：コーワソニア（株）、（株）長村製作所

③ まちぜみ参加者数

コロナ以前は60者程が参加していたが、コロナ以後は参加者が低調となり今年度も25者の参加に留まる。

④ ものづくり工業ビジネス交流会参加事業者数

当事業は企業視察後に交流会を実施してきたが、今年度は相手側の受け入れ準備が整わなかったため、令和6年4月に延期となった。

⑤ ネットショップ開設者数

目標16者に対し実績8者と未達となる。ネットショップを新たに開設する相談件数についても、コロナ禍初期に比べ減少した。しかしながら、野村総合研究所の予測では、EC市場は今後も伸長していくとされており、今後はネットショップの出店セミナー等で啓発活動を行い開設の推進を図りたい。

⑥ SNS活用事業者数

当所の公式インスタグラムへの掲載18者。経営指導員によるSNS活用支援37者。

⑦ ザ・ビジネスモール新規登録事業者数

現在123者が利用している。令和6年度も各経営指導員が目標を達成できるよう推進していく。

令和5年度 太田商工会議所 経営発達支援計画 評価結果 令和6年3月14日

分類	項目	上山 委員	間普 委員	戸塚 委員	平均	委員からのコメント
経営発達支援事業の内容	1. 地域の経済動向調査に関する事	5	5	5	5.0	聞き取り調査においては、コロナの影響が大きかった。昨年度までより、実績が多くなっており、高く評価したい。(間普委員) コロナの影響が少なくなり、聞き取り調査等が増加しているのは良いことだと思います。継続して頂きたい。(戸塚委員)
	2. 需要動向調査に関する事	3	4	3	3.3	新商品開発のアンケート調査について、令和6年度の改善方針を示してほしい。(上山委員) 新商品開発の対象事業者が少ない点は残念ではあるが、それ以外の項目を含めて概ね達成していると評価する。(間普委員) アンケート調査が出来なかったことは残念ですが、事業者の声を聴ける場は大切だと思いますので、次回は工夫して調査できるようお願いいたします。(戸塚委員)
	3. 経営状況の分析に関する事	4	5	5	4.7	経営状況分析について追跡調査を検討して欲しい。(上山委員) 経営分析件数が目標を大きく上回る実績となったことが評価できる。(間普委員) 良い結果だと思います。コロナ明けで多くの企業が補助金等の利用を望んでいると思いますので、継続した支援をお願いします。(戸塚委員)
	4. 事業計画策定支援に関する事	5	5	5	5.0	事業計画策定支援・創業計画策定支援経営状況分析について追跡調査を検討して欲しい。(上山委員) 事業計画策定支援については、目標とした取り組みを十分に達成したと評価する。各セミナー等の参加者数についても、十分な人数であったと評価する。(間普委員) 良い結果だと思います。多くの企業の事業計画等の策定支援を期待します。(戸塚委員)
	5. 事業計画策定後の実施支援に関する事	2	4	2	2.7	今後のためにも取り組みの強化をお願いします。(上山委員) 事業計画策定後の支援については、概ね達成できたと評価する。支援を受ける事業者のニーズを探り、より高い実績となることを期待する。(間普委員) 中小企業は実行する力が非常に弱いところがあります。事業計画の実行も出来ていない企業も多く存在します。ぜひ多くの企業の計画実施を行ってください。(戸塚委員)
	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事	5	5	4	4.7	まちゼミの参加者数について、令和6年度の改善方針を示してほしい。(上山委員) 需要開拓に寄与する事業については、目標を達成できたと評価する。SNS活用事業者が多数の実績となっており、ビジネス環境の変化を的確にとらえ、支援していくことを期待する。(間普委員) コロナ明けで中小企業は新たな需要を開拓することは非常に重要になっています。特に新たな知識を得ることや、新たな交流を持つことが大切です。ぜひそこに力を入れてください。(戸塚委員)

平均 4 4.7 4 4.2

総合コメント

上山委員	各種の補助金や支援が地域経済の向上にどのように役立ったか？こうした視点で見たい。
間普委員	経営発達支援計画の各分野において、高い水準で目標を上回る実績となったと評価する。全体として、コロナの影響が大きかった、昨年度までと比較し、それぞれの事業者の事業が活性化していることが確認できました。また、それに合わせた経営発達支援のための取り組みも十分に実施していると評価する。
戸塚委員	コロナの影響が少なくなり、多くの事業が実施できており、良かったと思います。令和6年度も多くの事業が実施でき、中小企業の役に立つことを期待しています。